

# 外部データソースからのピボットテーブルの作成

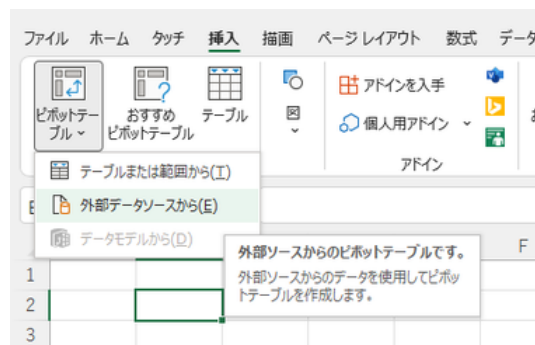
ピボットテーブルを作成して分析する時は、同じブック内にソースデータのシートがあることが一般的ですが、Excel では保存できない大量のデータを扱ったり、データとピボットテーブルを別の Excel ファイルにしておいたほうが便利な場合もあるかと思えます。

Excel には外部にあるソースデータを利用してピボットテーブルを作成できる機能が用意されています。外部のデータソースとしては、Excel ファイルのシートのほか、MS Access などのデータベースソフトのファイルや、CSV ファイルなどにも対応できますが、ちょっと高度な使い方になります。

ここでは、比較的わかりやすい、外部の Excel ファイル(起動している Excel ファイルではない)にあるソースデータを参照して、ピボットテーブルを作成する例で解説します。

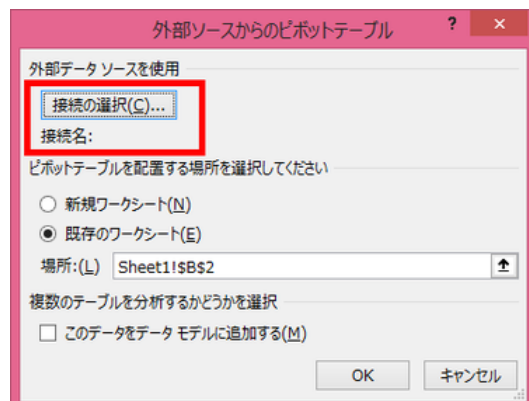
## 外部データソースとの接続

ピボットテーブルを作成したい場所のセルを選択しておいて、「挿入」⇒「ピボットテーブル」⇒「外部データソースから」を選びます。



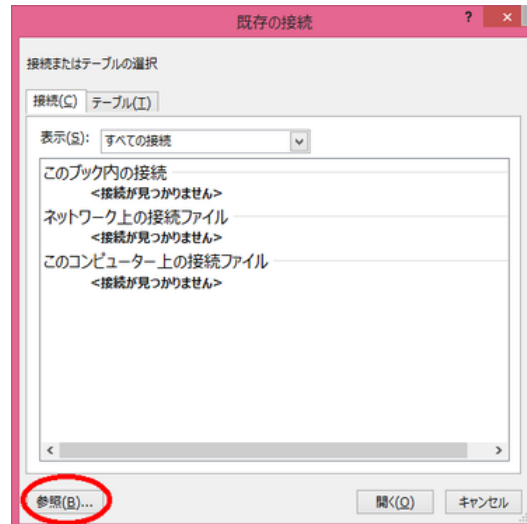
「外部データソースから」をクリックして

「外部ソースからのピボットテーブル」ダイアログボックスで、「接続の選択」ボタンをクリックします。

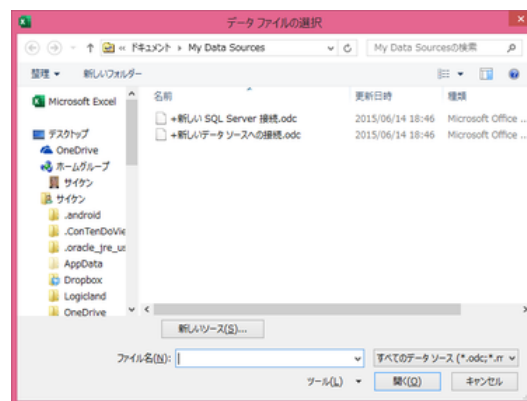


「接続の選択」ボタンをクリック

最初は、「既存の接続」ダイアログボックスの中に、対象のデータソースがありませんので、「参照」ボタンを押して、「データファイルの選択」ダイアログボックスを出し外部のデータソースを探します。

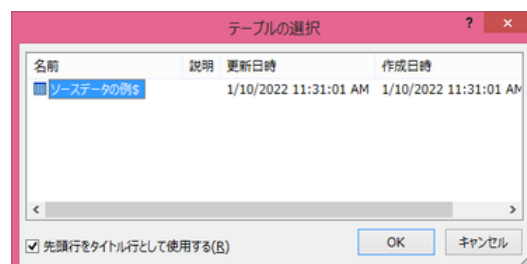


「既存の接続」に無いので、「参照」ボタンを押す



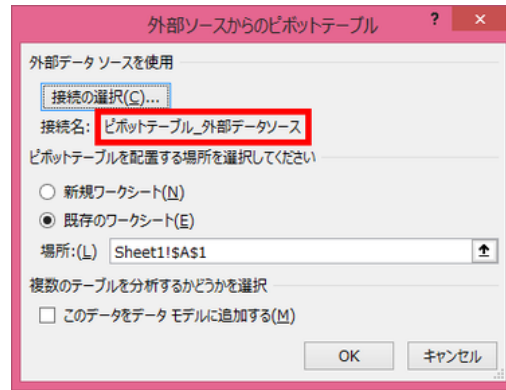
「データファイルの選択」で、データソースが保存されているファイルを探す

該当のファイルを見つけたら「開く」ボタンを押すと、「テーブルの選択」ダイアログボックスが出ます。参照したいソースデータを保存しているシートを選び、「OK」ボタンを押します。



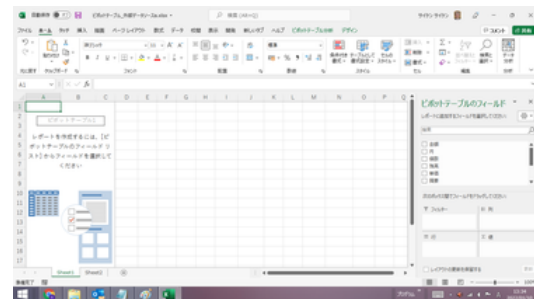
データソースを保存しているシートを選び、「OK」ボタンを押す

接続名に外部の Excel ファイル名が表示されたことを確認し、ピボットテーブルを既存のワークシートか新規のワークシートのいずれに作成するかを指定して、「OK」ボタンを押すと、空のピボットテーブルが挿入され、ピボットテーブルの作成（「ピボットテーブルのフィールド」）画面になります。

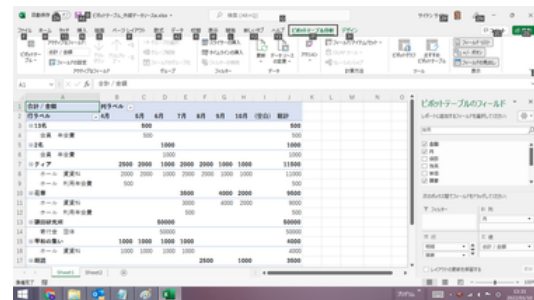


外部のデータソースに接続されたことを確認して「OK」ボタンを押す

以降は、ソースデータが同じブック内にある場合と同じ操作で、ピボットテーブルを作成できます。



空のピボットテーブルが出てくる



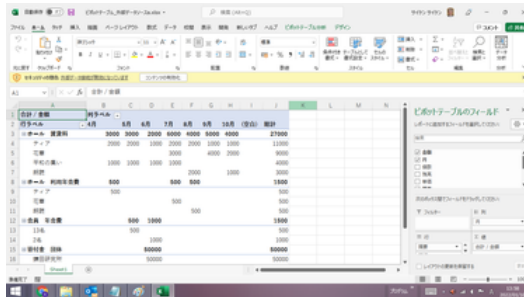
以降は、通常のピボットテーブルの作成操作と同じ

ピボットテーブルが作成できたら、ファイル名を付けて保存します。

# ピボットテーブルの呼び出しと更新

## セキュリティの警告

外部データソースに接続して作成したピボットテーブルを含む Excel ファイルを開いた時には、「外部データ接続が無効になっています」というセキュリティ警告が出ることがあります。これは、データ接続がマルウェアやその他のセキュリティ上の危険性を含んでいる恐れがあるという警告です。

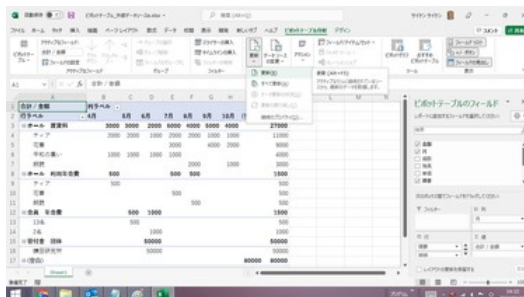


セキュリティの警告が出ることがある

接続先のファイルが信頼できる場合には、「コンテンツの有効化」をクリックします。これによりこの警告は消えます。

## データの更新

ソースデータに変更があった場合には、「更新」しないとピボットテーブルにその変更が反映されないことは、外部のデータソースの場合でも同じです。



ソースデータが変更されていたら「更新」する必要あり

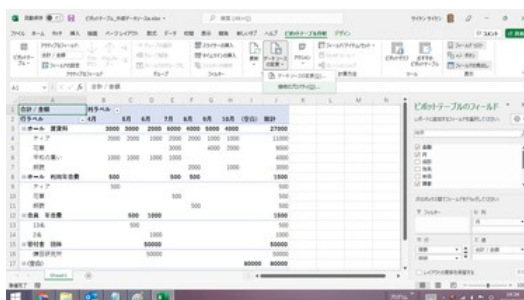
### 【ファイルを開くときに自動更新】

ただ、外部データソースの場合には、変更の有無がわからないこともありますので、ピボットテーブルの Excel ファイルを開いたら、必ず「更新」をすることをお勧めします。

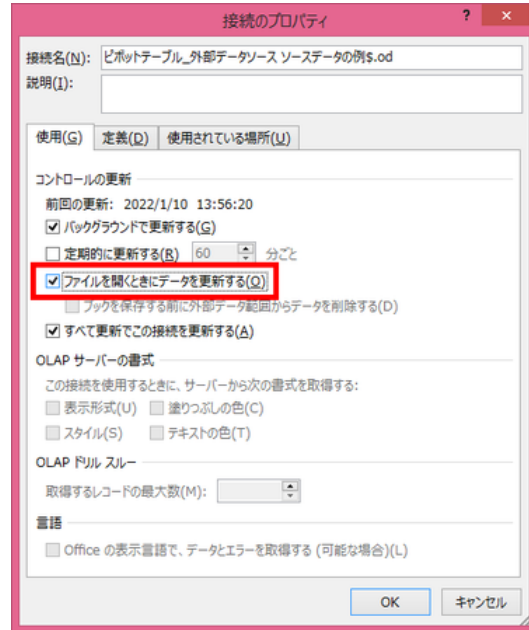
### 【便利知識】

Excel にはファイルを開く度に、自動的に「更新」させる設定方法が用意されています。

具体的には、「ピボットテーブル分析」タブの「データソースの変更」のメニューから「接続のプロパティ」を選び、「接続のプロパティ」ダイアログボックスで「ファイルを開くときにデータを更新する」にチェックを入れて、「OK」ボタンを押します。



「接続のプロパティ」で自動更新の設定ができる

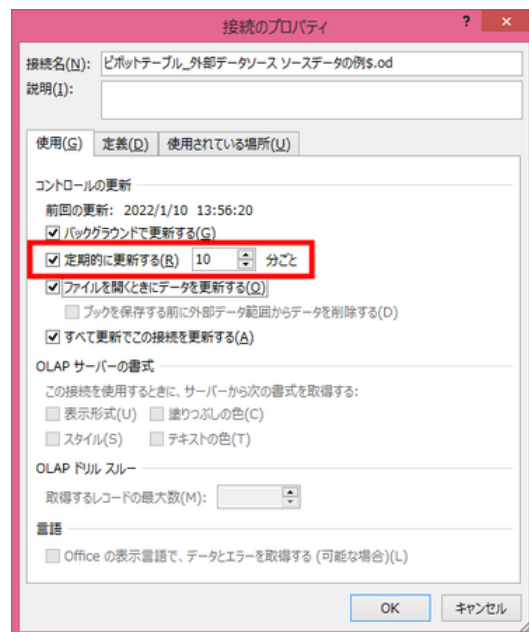


ファイルを開く度に自動的に「更新」させる

### 【定期的に自動更新】

また、頻繁にデータが更新される外部データソースへの接続に対応するために、一定間隔ごとに自動的にピボットテーブルを更新させる設定もできます。

具体的には、「接続のプロパティ」ダイアログボックス内の「定期的に更新する」にチェックを入れて、時間間隔を設定した上で「OK」ボタンを押します。



一定間隔ごとに自動的に「更新」させる